

ID

氏名

年齢

科名

病棟

【術前】
GEM+CDDP+Pembrolizumab療法
(short hydration)

3 週毎 4 コース予定

疾患名 非小細胞肺癌

主治医

指導医

HBs抗原()、HBs抗体()、HBc抗体()

スケジュール

		day1	day8
キイトルーダ(ペムブロリズマブ)	200 mg/body	↓	
ゲムシタビン	1000 mg/m ²	↓	↓
シスプラチン	75 mg/m ²	↓	

【注意】

- * 他剤使用時はペムブロリズマブ投与前に血管確保用生食にてフラッシュすること
- * ペムブロリズマブはインラインフィルター(0.2または0.22 μm)を通して投与すること
- * 一日の尿量が3000 mL以上になるように調整すること
- * シスプラチンは遮光のこと
- * 治療前日から翌々日まで通常の飲水に加えて、経口補水液500 mLを1日2本飲水すること

通常量より減量する際の理由

(レジメン)

Day 1

- ① 生食 500 mLで血管確保
- 維持(20 mL/時間)
- ② 生食 500 mL + L-アスパラギン酸K 10 mEq + 硫酸Mg補正液 4 mEq
- 点滴静注60分(500 mL/時間)
- ◎メインの生食でフラッシュ
- ③ キイトルーダ 200 mg + 生食 50 mL
- 点滴静注30分(100 mL/時間)
- 希釈後最終濃度が1～10 mg/mLとなるよう生食液量を調節する
- ◎メインの生食でフラッシュ
- ④ アロカリス 235 mg + パロノセトロン 0.75 mg + デキサメタゾン 9.9 mg + 生食 100 mL
- 点滴静注30分(200 mL/時間)

◎メインの生食でフラッシュ

- ⑤ ゲムシタビン + 生食 100 mL 点滴静注30分(200 mL/時間)
- ⑥ 20%マンニトール 200 mL 点滴静注30分(400 mL/時間)
- ⑦ シスプラチン + 生食 適量(全量 500 mL) 点滴静注120分(250 mL/時間)
- ⑧ 生食 500 mL + L-アスパラギン酸K10 mEq + 硫酸Mg補正液 4 mEq 点滴静注60分(500 mL/時間)

Day 2-4 デキサメタゾン 8 mg 内服

Day 8

- ① 生食 500 mLで血管確保 維持(20 mL/時間)
- ② デキサメタゾン 6.6 mg + 生食 20mL 側管静注
- ③ ゲムシタビン + 生食 100 mL 点滴静注30分(200 mL/時間)

	1コース目		2コース目		3コース目		4コース目	
	day1	day8	day1	day8	day1	day8	day1	day8
月 日	/	/	/	/	/	/	/	/
キイトルーダ 開始時刻	↓		↓		↓		↓	
ゲムシタビン 開始時刻	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
シスプラチン 開始時刻	↓		↓		↓		↓	
確認								